

ウラギンスジヒョウモン チョウ目タテハチョウ科

Argyronome laodice japonica (Menetries)

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー 準絶滅危惧

選定理由

近年、全国的に減少し、加賀南部では激減している。

形態

開張50~60mm程の中型種。翅表の地色は赤褐色で黒い豹柄がある。オオウラギンスジヒョウモンによく似ているが、後翅表基部よりの豹柄は、本種では帯状に連続せず点状に分離する。

国内分布

北海道から九州まで広く分布するが、全国的に減少している。

県内分布

加賀から能登にかけて広く分布し、普通に観察されるが、加賀南部では近年、稀にしか観察されなくなった。

生態

年1回の発生で、6月中頃から森林周辺の明るい草地で観察され、アザミ類やオカトラノオなどの花で吸蜜する。低標高地では盛夏には夏眠し秋に再び活動するが、奥山では盛夏にも活動する。卵は、地表の落葉、枯枝、小石などに産まれ、幼虫はスミレの仲間を食べる。

生息地の条件

草地環境が人手によって維持され、樹林と草原が入り混じった環境と思われる。

生存の危機

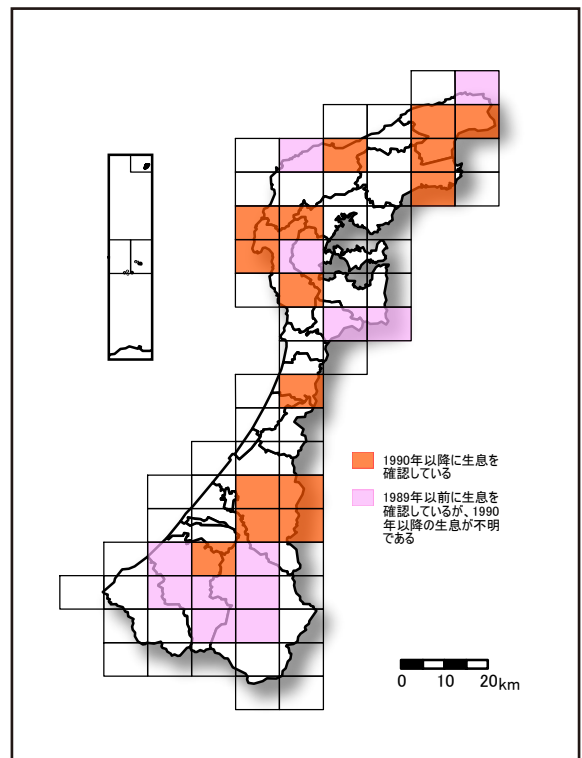
里山に人手が入らなくなったことによる環境変化と思われる。(A, B)

参考文献

福田晴夫ほか 1983. ウラギンスジヒョウモン. 原色日本蝶類生態図鑑(Ⅱ): 82-86. 保育社. 大阪.



写真提供者: 竹谷宏二



県内の分布